

自分と子どものかかわりから自己理解を図る 保育授業の開発 (第7報)

— 高等学校家庭科普通科目「家庭総合」における Flour Baby Project 実践の検討 —

佐藤 園 ・ 河原 浩子* ・ 平田美智子*

本研究の目的は、全ての生徒が乳幼児との関わりを通して、親になるということを考え、自己理解を図る保育授業の開発にある。本報は、この目的を達成するための第四段階として、高等学校家庭科普通科目「家庭総合」を履修している生徒198名(第3学年男子57名、女子141名)に実施された Flour Baby Project (以下、FBPと称す)を検討した。その結果、学校全教員のFBPに対する理解と協力が前提とはなるが、①一人の家庭科教員で40名の生徒を対象に、2時間の「家庭総合」の授業時間と1日間の校内活動でFBPを実践できること、②7日間の実践と比較すると、獲得認識の質・量の差はみられるが、生徒は、③愛情を持ってFBを抱き、④世話に伴う大変さから、⑤子育てに対する責任と現在の自分は精神的・経済的に自立していないため親になることはできないという⑥「現在の自分に関する認識」を形成していた。それに対して、⑦「家族の協力の必要性」や「自分の親に対する思い」を獲得していた生徒は少なかったが、授業で行ったディスカッションにより、子育てには「家族や周りの人の協力が必要である」と認識した生徒もある程度みられた。

Keywords : 高等学校家庭科, 普通科目, 授業開発, 保育学習,
フラワーベイビープロジェクト

1 はじめに

本研究の目的は、家庭科の保育学習において、全ての生徒が乳幼児との関わりを経験する中で自分が親になるということを考え、自己理解を図る授業開発にある。本研究では、その教材として、米国カンザス州 Overland Trail Middle School で、生徒が連続した5日間 Flour Baby (以下、FBと称す)を世話し、1日の終了時には答えるべき問いを含んだ Baby Journal (以下、BJと称す)を記述し、毎日の家庭科の授業で、その経験を通して問題となったことをディスカッションにより検討することを骨子とする Flour Baby Project (以下、FBPと称す)と、それをわが国の大学生に追試した先行研究^{1) 2)}に着目した。

それらの研究結果を踏まえ、授業開発の第一段階として、FBの実施可能性を検討するために、中学校の「総合的な学習の時間」³⁾と高等学校における「特別編成授業」⁴⁾、第二段階として、教科「家庭科」でのFBPを実施の可能性と有効性を検討するために中学校の選択「家庭」⁵⁾高等学校家庭科専門科目「発達と保育」⁶⁾でFBPを実施し、その意義と有効性を考察した。

さらに第三段階として、必修科目における家庭科授業でのFBP実施の可能性を検討するために、中学校の必修教科「家庭分野」^{7) 8)}と高等学校の普通科目「家庭総合」⁹⁾でFBPを実践した。その結果、第一・二段階と同様に、FBは生徒が強い興味・関心を持つことができる教材であること、FBPを通して、生徒が過去から将来に渡る自分の成長と家族

岡山大学教育学部家庭講座, 700-8530 岡山市津島中3-1-1

Development of Early Childhood Education and Care Class That Enables Self-understanding from Relations between Child and I (7) : Examination of Flour Baby Project Practice in High School Home Economics General Subject "Katei So-go (Integrated Home Economics)"

Sono SATO, Hiroko KAWAHARA* and Michiko HIRATA*

Department of Home Economics Education, Faculty of Education, Okayama University, 3-1-1 Tsushima-naka, Okayama 700-8530

*Graduate School of Education (Master's Course), Okayama University

との関わりを考える中で、自己理解を図ることができる可能性が示唆された。

本報では、高等学校で全ての生徒がFBPを学習できる可能性を検討するために、岡山県立岡山南高等学校の普通科目「家庭総合」において実践されたFBPの結果を、授業開発の第四段階として位置づけ、その有効性と課題を、第三段階として実施した“普通科目「家庭総合」でのFBP実践”の結果と比較・検討することを目的とした。

II. 岡山南高等学校におけるFBP実践の概要

岡山南高等学校（以下、「南高」と称す）は、明治35年に開校され、商業に関する「商業科」「国際経済科」「情報処理科」と共に、家庭に関する「家政科（2006年度より生活創造科）」「服飾デザイン科」を有する県内でも屈指の男女共学の歴史と伝統のある専門高校である。家庭に関する学科が設置されていることから明らかなように、専門的な知識・技術を持たれた総勢十数名の家庭科の専任教員・講師が、家庭科を熱心に指導しておられる。新しい教材等の導入に関しても積極的であり、FBPに関する継続研究を見られた砂田裕子先生が南高での実践を申し出られ、独力で校外での実践環境を整えられた上で、2005年11月から家政科の専門科目「発達と保育」でFBPを試行されている。それらの実践は、県内でも高く評価され、新聞やTV等で紹介されてきた。

1. 家政科専門科目「発達と保育」におけるFBP

家政科の専門科目「発達と保育」でのFBPは、本継続研究の第三段階として実施した“高等学校普通科目「家庭総合」におけるFBP実践”とほぼ同一の内容で実施されてきたが、位置づけのみが異なっている。それは、本継続研究では、保育や家族学習の導入としてFBPの開発を行ってきたが、砂田先生は、「家庭科の保育学習の最初にFBPを実施するよりも、一通り保育学習をし、知識を得た後に行った方がより効果的ではないか」¹⁰⁾と判断され、保育学習のまとめとしてFBPを実践されたためである。

2. 商業学科普通科目「家庭総合」におけるFBP

以上の専門科目での二度の実践を活かし、2006年度からは商業学科の普通科目「家庭総合」においてFBPの実践が行われている。その実施に当たり、砂田先生は次のように述べておられる。「専門科目との違いは、FBの体重を調整しないこと、一時間目から六時間目までの一日実施とすること、BJをまとめ、次週の授業でディスカッションを行うこと

である。」¹¹⁾

以下、商業学科普通科目「家庭総合」において実践されたFBPの概要について紹介したい。

III. 岡山南高等学校普通科目「家庭総合」におけるFBP実践の概要

1. 普通科目「家庭総合」におけるFBPの位置づけ

南高の商業学科では、表1に示すように、平成12年版高等学校家庭科学習指導要領に基づく普通科目「家庭総合」の内容を、第2・3学年で各2単位開設している。

この中でFBPを実践するに当たり、砂田先生は、専門科目「発達と保育」でのそれと同様に、保育学習のまとめとする方がより効果的であると判断された。そのため、表2に示すように、第3学年年間指導計画の「子どもの発達と保育」の最後の内容としてFBPを位置づけられた。

表1 「家庭総合」実施計画

(1) 人の一生と家族・家庭	第2学年
(2) 子供の発達と保育・福祉	第3学年
(3) 高齢者の生活と福祉	第3学年
(4) 生活の科学と文化	第2・3学年
(5) 消費生活と資源・環境	第2学年
(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	第2・3学年

表2 第3学年「家庭総合」年間計画表

子どもの発達と保育・福祉	子どもの発達 親の役割と保育 子どもの福祉 FBP	1学期
高齢者の生活と福祉	高齢者の心身の特徴と生活 高齢者の福祉 高齢者の介護の基礎	
生活の科学と文化	衣生活の科学と文化 住生活の科学と文化	2学期
生活の科学と文化	住生活の科学と文化 生活文化の伝承と創造	3学期

2. FB養育ルール・BJの問い・ディスカッションのテーマ

実践で用いられた「FB養育ルール」「BJの問い」「ディスカッションのテーマ」は、表3①・表4①・表5①に示す通りである。

表3 フラワーベビー養育ルール

①岡山南高等学校「家庭総合」のFBPで用いられたルール	②長岡大手高等学校「家庭総合」のFBPで用いられたルール
<p>これから、あなたはフラワーベビーの“親”になってもらいます。ベビーを本当の赤ちゃんだと思って世話をしてください。この経験を通して、子どもの世話をするという責任と子どもが育っていくために必要な環境について考えてみましょう。</p> <p style="text-align: center;">FB養育ルール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1時間目から6時間目まで、あなたがベビーの世話をすること。友達にベビーを渡して世話をさせたり、育児放棄をしてはいけない。 誰のベビーに対しても殴ったりひどい目にあわせるなどの虐待をしてはいけない。 体育や実習の時間などでどうしても世話ができないとき、1時間はベビーに昼寝をさせてもよい。その場合、安全な場所にベビーを寝かせておくこと。 プロジェクトの終了後、ベビージャーナルを付けること。ジャーナルには、不満も含めて正直な気持ちを書くこと。 <p>このルールを守るという約束として、自分の名前をサインしてください。 サイン：</p>	<p>ベビーの“親”になるにあたり、以下のルールを必ず守って下さい。</p> <p style="text-align: center;">フラワーベビー養育ルール</p> <ol style="list-style-type: none"> あなたがベビーの世話をすること。友達にベビーを渡して世話をさせたり、育児放棄をしてはいけない。 誰のベビーに対しても殴ったり、ひどい目にあわせるなどの虐待をしてはいけない。 学校にいる間に、1時間、ベビーに昼寝をさせてもよい。その時はベビーをあなたのロッカー等安全な場所に寝かせること。昼寝は、体育や実習の時間など世話ができない時に限る。 ベビージャーナルを必ずつけること。ジャーナルには、不満も含めて、正直な気持ちを書くこと。初日と最終日には、おうちの人から感想をもらうこと。 学校が終わって、1日に1時間ベビーシッターを雇うことができる。しかし、1日に2時間以上雇ってはいけない。 <p>〈一人で親になる場合〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ベビーは、毎日、親と一緒に家に帰らなければならない。ベビーを家に連れて帰って世話をしたという証明のために、おうちの人に毎日署名をもらうこと。 <p>〈二人で親になる場合〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ベビーは、毎日、親と一緒に家に帰らなければならない。この責任は二人が均等に果たさなければならない。ベビーを家に連れて帰って世話をしたという証明のために、当番の人は、おうちの人に署名をもらうこと。 二人の親でスケジュールを作り、同じだけの時間をベビーと過ごせるようにそれに従うこと。 <p>このルールを守るという約束として、自分の名前をサインして下さい。 サイン：</p>

表4 BJの質問項目

①岡山南高等学校「家庭総合」のFBPで用いられたルール	②長岡大手高等学校「家庭総合」のFBPで用いられたルール
<ol style="list-style-type: none"> ①あなたのベビーは男の子ですか？女の子ですか？ ②なぜ、あなたは、ベビーにその性を望んだのですか？ ③あなたはベビーにどんな名前を付けましたか？ ④どうしてその名前を付けたのですか？ ①どんなときに、あなたは赤ちゃんを連れているのが難しいと感じましたか？ ②それはなぜですか？（難しいと感じなかった人は、なぜ感じなかったのかについて書いてください。） 	<p>1日目</p> <ol style="list-style-type: none"> ①あなたのベビーは男の子ですか？女の子ですか？ ②あなたのベビーの性は、あなたが望んだものでしたか？ ③なぜ、あなたは、ベビーにその性を望んだのですか？ ①あなたはベビーにどんな名前を付けましたか？ ②どうしてその名前を付けたのですか？ これから世話をしていく中で、どのような問題があなたのベビーに起こると思いますか？ あなたのベビーに“親”として責任を持った今、あなたはどんなことを感じたり、思ったりしていますか？ <p>2日目</p> <ol style="list-style-type: none"> あなたは、この24時間に、どんな経験をしましたか？（ベビーの世話をする当番ではなかった人は、世話をしないということについて、どのようなことを感じたかを書いて下さい。）（以下、項目A） どのような時に、人があなたの“赤ちゃん”を見ていると感じますか？ ①どんな時に、あなたは赤ちゃんを連れているのが難しいと感じましたか？ ②それは、なぜですか？（難しいと感じなかった人は、なぜ、感じなかったのかについて書いて下さい。） <p>3日目</p> <ol style="list-style-type: none"> 項目A 今日、子守を頼んだ人は、答えて下さい。

<p>3. フラワーベビーを育てるために、自分にはどのような要素が欠けていると思いますか？</p> <p>4. フラワーベビーの親であることのよい点と悪い点を挙げてください。</p> <p>5. ①もし、あなたが本当に10代で親になったとすると、どのようなことをあきらめたり、変えたりしなければならないと思いますか？ ②あなたは、それができますか？</p> <p>7. あなたは、親になる準備ができていますか？</p> <p>8. あなたが独立しているとしたら、赤ちゃんの世話をしてくれる人にどれくらいお金を払わなければならないと思いますか？家族は頼れません。1年間の費用を計算してください。（このことについて、多くの経験を持っている大人の人から、この計算に対する助言をもらってください）</p> <p>10. フラワーベビーの親になって、あなたが学んだ最も重要なことは何ですか。</p> <p>6. もし、あなたが将来親になったとしたら、赤ちゃんのために、どのような人生の目標を変えなければならないと思いますか？</p> <p>9. ベビーの“親”になることを通して、感じたことや考えたことなど、何でもいいので教えてください。</p>	<p>①なぜ、子守を頼んだのですか？ ②どの位の時間、預けましたか？ ③誰に頼みましたか？（以下、項目B）</p> <p>3 なぜ、人が親になる時、自分の家族は重要なのでしょうか？</p> <p>4 日目 1 項目A</p> <p>2 ①FBを育てるために、自分にはどのような要素が欠けていると思いますか？ ②FBの親であることの良い点と悪い点をあげてください。</p> <p>3 項目B</p> <p>5 日目 1 項目A</p> <p>2 ①もし、あなたが本当に10代で親になったとすると、どのようなことをあきらめたり、変えたりしなければならないと思いますか？ ②あなたは、それができますか？</p> <p>3 ①あなたは、親になる準備ができていますか？ ②それは、なぜですか？</p> <p>6 日目 1 項目A</p> <p>2 あなたが独立しているとしたら、赤ちゃんの世話をしてくれる人に、どれ位お金を支払わなければならないと思いますか？家族は頼れません。1年間の費用を計算してください（このことについて、多くの経験を持っている大人の人から、この計算に対する助言をもらってください）。</p> <p>3 あなたは、これまで知らなかったことで、どのような責任について学びましたか？</p> <p>4 ①あなたは、FBの親として、真剣に取り組めましたか？ ②それは、なぜですか？正直に書いて下さい。</p> <p>7 日目 1 ①あなたは、FBと別れる準備ができていますか？ ②それは、なぜですか？</p> <p>2 FBの親になって、あなたが学んだ最も重要なことは何ですか？</p> <p>3 もし、あなたが、現在または将来、親になったとしたら、赤ちゃんのために、どのような人生の目標を変えなければならないと思いますか？</p> <p>4 ベビーの“親”になることを通して、感じたことや考えたことなど、何でもいいので教えてください。</p>
--	---

表5 ディスカッションのテーマ

①岡山南高等学校「家庭総合」のFBPで用いられたルール	②長岡大手高等学校「家庭総合」のFBPで用いられたルール
ディスカッションのテーマ	
1. FBPを実践して気づいたこと	1. 赤ちゃんと共に暮らすことに関して生じた問題 2. 親になるということ（を私たちはこう考える）
ディスカッション終了後の自由記述のテーマ	
1. ディスカッションのまとめとして：話し合いをして「新たに気づいたこと」 2. FBPのまとめとして：「親になるということ、子どもを育てるということ」	○ベビーの“親”になることを通して、感じたことや考えたことなど、何でもいいので教えてください。（表4②7日目質問項目4）

3. FBPの実践内容

以上の「FB養育ルール」「BJの問い」「ディスカッションのテーマ」に基づき、FBPは以下の内容で実施された。

(1) FBP実践の対象者・実践者・期間

FBP実践の対象者・実践者・期間は、表6に示す通りである。

表6 クラス編成及び実施日程

クラス編成		生徒数			授業実施日（2006年）		授業者
		男子	女子	合計	F B Pの実践	ディスカッション	
商業科	3-1	13	27	40	6/8(木)	6/15(木)	平田美智子
	3-2	11	29	40	6/6(火)	6/13(火)	
国際経済科	3-3	7	33	40	6/7(水)	6/14(水)	
情報処理科	3-4	13	26	39	6/1(木) 6/2(金)	6/15(木)	砂田 裕子
	3-5	13	26	39	5/31(水)	6/7(水)	
合計		57	141	198			

表7 F B P実施日程

学科		日程	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	
商業科	1	6/8(木)	「家庭総合」 F B作成	「家庭総合」 通常授業				「他教科」 F B P実施	
	2	6/6(火)							
国際経済科	3	6/7(水)							
情報処理科	5	5/31(水)							
	4	6/1(木)	「他教科」						「家庭総合」 F B作成
		6/2(金)	「他教科」 F B P実施						

(2) F B Pの実践内容

1) 実践前

- ①教員への事前説明：実施日に影響する他教科の教科担任に個別にF B Pの目的と内容を、全教員に対して職員朝礼で実施日程を説明
- ②時間割変更：表7に示すように、学校行事の関係で時間割変更できなかった4組以外は、1・2校時に「家庭総合」の授業を行い、6校時までF B Pを実施できるように時間割を変更
- ③生徒への事前連絡：生徒には、(i) F B Pの実施日程、(ii) “おくるみ” (パスタオル) の準備、(iii) F Bの名前を考えておくこと、を連絡

2) 1回目の授業（50分）

- ①生徒に記述すべきB Jを配付し、F B Pの趣旨説明を行う
- ②養育ルールを生徒に提示し、これを守る誓約としてサインさせる（表3①）
- ③生徒にF B（専門科目「発達と保育」のF B Pで家政科の生徒が作成したF B）を配布する
- ④生徒は、メインディングシートにマジックでベイビーの顔を描き、渡されたF Bに貼ることで自分のF Bを作成し、準備してきた“おくるみ”にくるむ
- ⑤生徒は、F Bを抱いたまま、B Jの質問「自分

のF Bの属性」4問（表4①設問項目1）に回答する

- ⑥F Bと共に親子クラス写真を撮る

2) 校内でのF B Pの実践

- ①生徒は、休憩時間を含む2～6校時終了時まで「養育ルール」に従ってF Bと共に生活する（4組のみ翌日の1～6校時）
- ②6校時終了後、家庭科室にF Bを返却する
- ③宿題としてB Jの質問「世話に伴う大変さ」2問、「現在の自分の親としての資格」7問、「F Bと共に活動して感じたこと、学んだこと」2問（表4①設問項目2～10）に回答し、翌日、B Jを提出
- 4) 2回目の授業（50分）…1回目の授業の1週間後（4組は2週間後）
 - ①生徒に「F B Pを実施して気づいたこと」を3～4人の班別に話し合わせる
 - ②班での話し合いの結果を3項目にまとめさせ、板書させる
 - ③教師が板書を確認しながら、気づいた事等を述べる
 - ④生徒に、話し合いをして「新たに気づいたこと」とF B Pのまとめとして「親になるということ、子どもを育てるといこと」について自由に記述させる

IV 岡山南高等学校普通科目「家庭総合」における FBP実践の本継続研究への位置づけ

以上の実践は、本継続研究の中にどのように位置づけられるのだろうか。「FB養育ルール・BJ」の問い・ディスカッションのテーマ」「FBP実践の内容」の観点から考えてみたい。

1. FB養育ルール・BJの問い・ディスカッションのテーマ

南高の普通科目「家庭総合」で用いられた「FB養育ルール」「BJの問い」「ディスカッションのテーマ」と、砂田先生がFBP実践を申し出られた時にデータでお渡しした、本継続研究第三段階として新潟県立長岡大手高等学校（以下、「長岡大手高」と称す）の普通科目「家庭総合」のFBPで用いたそれらを比較したものが、表3・4・5である。

表3・4から、南高の実践では、長岡大手高で用いた「FB養育ルール」「BJの問い」の中から、ルールや質問項目が選ばれ、南高の実践に適合するようにそれらを加筆訂正することで、ルールや問いが設定されていることがわかる。

しかし、「ディスカッションのテーマ」とその後の自由記述テーマに関しては、南高では、長岡大手高での「ディスカッション後の自由記述テーマ」を

「ディスカッションのテーマ」とし、その後の自由記述では、本継続研究では用いていない「話し合いをして新たに気づいたこと」を生徒に書かせた上に、本継続研究の第二段階で長岡大手高専門科目「発達と保育」の「ディスカッションのテーマ」であった「親になるということ、子どもを育てるということ」が、FBPのまとめの自由記述テーマとして設定されている。

なぜ、このような「FB養育ルール」「BJの問い」「ディスカッションのテーマ」が設定されたのか。それに関しては、砂田先生の実践報告には記述されていないため、明確な理由はわからない。本継続研究を参考に自らが実践された南高の専門科目「発達と保育」でのFBPの結果から、砂田先生が経験的に南高の普通科目「家庭総合」でのFBP実践に必要なものを長岡大手高で用いたルール・問い・テーマから取捨選択し、実践内容に適合するよう表現を改めて設定されたものであろうと推察される。

2. FBPの実践内容

南高と長岡大手高の普通科目「家庭総合」でのFBPの実践内容を、その相違点に着目してまとめると表8になる。

表8 FBP実践の内容

	①岡山南高等学校	②長岡大手高等学校
実施期間	2006年5～6月	2004年9月
位置づけ	家庭科普通科目「家庭総合」	
	「(2)子どもの発達と保育・福祉」のまとめ	「(1)人の一生と家族・家庭」の導入
対象者	第3学年・商業学科・5クラス 198名（男子57名・女子141名）	第2学年・普通科・1クラス 40名（男子19名・女子21名）
FB養育ルール	表3①	表3②
BJの質問項目	表4①	表4②
ディスカッションのテーマ	表5①	表5②
実施期間	通常授業時間の1日間	土日を含む連続した7日間
実施場所	学校内	学校・家庭を中心とする生徒の生活の場全体
FB	教師に与えられたFB（自分の誕生時の体重とは無関係）に顔を描く	自分の誕生時の体重のFBを自分で作成し、顔を描く
FBとの親子写真	親子でクラス写真（FBP開始時）	FBとの親子写真（FBP開始時と終了時）
生徒の家族からのコメント	無	有

表8からわかるように、両校の実践で共通しているのは、普通科目「家庭総合」でFBPを実践したという「位置づけ」のみである。それ以外の実施期間、「家庭総合」におけるFBPの位置づけ、対象者の学年・学科、実施期間・場所、FB、親子写真、生徒の家族からのコメントと、FB養育ルール、BJの質問項目、ディスカッションのテーマは異なっている。

3. 南高普通科目「家庭総合」におけるFBP実践の本継続研究への位置づけ

しかし、先に考察したように、南高でのFBPは、砂田先生の意図として述べられていた「家庭科の保育学習の最初にFBPを実施するよりも、一通り保育学習をし、知識を得た後に行った方がより効果的ではないか」を検証するための特別な内容が付加されたFB養育ルール・BJの質問項目・ディスカッションのテーマ等は一切設定されていない。それは、「専門科目と普通科目におけるFBPの違い」、具体的には「FBの体重を調整しないこと、一時間目から六時間目までの一日実施とすること、BJをまとめ、次週の授業でディスカッションを行うこと」を検討する実践内容となっている。

以上から、南高の普通科目「家庭総合」で実施されたFBPは、長岡大手高の普通科目「家庭総合」で用いたものと同じのFB養育ルール・BJの質問項目・ディスカッションのテーマの中から、「FBの体重調節をしない」「学校のための1日実施」とい

う実施条件に適合するように取捨選択し、表現を改めたルール・質問項目・テーマを用いて実践されたFBPであると考えられる。

したがって、長岡大手高と南高の「家庭総合」で実践されたFBPの結果を比較・検討することで、「FBの体重調節をしない」「学校のための1日実施」のFBPの有効性と問題点を明らかにし、本継続研究で目的としている「高等学校で全ての生徒がFBPを学習できる可能性」を探ることができると考えられる。

以下、南高「家庭総合」におけるFBPの実践結果を分析・考察し、それを長岡大手高の結果と比較・検討してみたい。

V 岡山南高等学校普通科目「家庭総合」におけるFBPの実践結果

1. BJの記述にみる生徒の獲得認識

南高の実践を、BJの質問項目とディスカッション終了後の質問事項に対する男子37名、女子109名、計146名の生徒の記述から検討してみたい。

(1) 分析枠組の設定

BJの15の質問項目に対する生徒の記述から、本継続研究第4報の結果を参考に、キーワード・センテンスを記述項目として抽出した。

その結果、表9に示す56の記述項目が得られた。

表9 分析枠組とした記述項目とカテゴリー

<p>◎自分に関する認識（自己認識）</p> <p>1. 体力的につらい</p> <p>2. 経済力がない、働かないといけない</p> <p>3. 忍耐力が欠けている</p> <p>4. 育児について勉強しないといけない</p> <p>5. 自分の成長できる</p> <p>6. 自分には育てられない</p> <p>7. 育児できるか不安になった</p> <p>8. 自分がしっかりしないといけない</p> <p>◎FBに対する愛情（愛情）</p> <p>9. かわいいと思った</p> <p>10. 愛着がわいた</p> <p>11. 寂しい・胸が痛い(別れる時)</p> <p>12. 愛情を感じた</p> <p>13. 暖かい</p> <p>14. 親しみを持てた</p> <p>15. 癒される</p> <p>◎自分の親に対する思い（親）</p> <p>16. 親の大変さがわかった</p> <p>17. 母はすごいと思った</p> <p>18. 親への感謝の気持ち</p>	<p>◎子育てに対する責任（責任）</p> <p>19. 子どものことを第一に考える</p> <p>20. 責任を持つ</p> <p>21. 遊びなどをあきらめて子どもと過ごす</p> <p>22. 守る（大切にする）</p> <p>23. 育てる、しっかりとした人に育てる</p> <p>24. 子どものために働く</p> <p>25. 育てる、愛情を持って育てる</p> <p>26. 思いやりを持つ</p> <p>◎世話に伴う大変さ（大変）</p> <p>27. トイレに行くとき大変</p> <p>28. 片手しか使えないから大変</p> <p>29. 重いから大変</p> <p>30. パソコンを打つとき大変</p> <p>31. 食事をする時大変</p> <p>32. ずっと抱えていることが大変</p> <p>33. 教室移動が大変</p> <p>34. 荷物を持つとき大変</p> <p>35. 預けないといけないから大変</p> <p>36. 心配りしないといけないから大変</p> <p>◎家族の必要性（家族）</p> <p>37. まわりの人の協力が必要</p> <p>38. 女の人にまかせっきりにしない</p>	<p>◎養育態度の反省（反省）</p> <p>39. 物のように扱った</p> <p>40. 雑に扱った</p> <p>41. あまり本気でかわいがれなかった</p> <p>42. 大事にできた</p> <p>43. 目を離した</p> <p><i>◎FBの問題点（問題）</i></p> <p>44. 泣かないから楽</p> <p>45. 動かないから楽</p> <p>46. 動かない（暴れない）</p> <p>47. 本来の苦勞が分からない</p> <p>48. しゃべらない</p> <p>49. 感情がわからない</p> <p>50. 授業に集中できない</p> <p>51. 実感がわからない</p> <p>52. ただもっているだけだった</p> <p>53. 子育てが不安になった</p> <p>54. 関心がない人には意味がない</p> <p>55. 大切にしようという気持ちがわいてこない</p> <p>56. 時々赤ちゃんを邪魔に感じた</p>
---	---	---

本実践の有効性を比較検討するために、それらの項目を、本継続研究の結果を参考として「自分に関する認識（以下、「自己認識」と称す）」・「FBに対する愛情（以下、「愛情）」・「親に対する思い（以下、「親）」・「子育てに対する責任（以下、「責任）」・「世話に伴う大変さ（以下、「大変さ）」・「家族の必要性（以下、「家族）」・「養育態度の反省（以下、「反省）」・「FBPの問題点（以下、「問題）」の8つのカテゴリーに整理した。

以下、表9に示す8カテゴリー・56記述項目を分析枠組みとして考察を行いたい。

(2) 生徒全体でみた場合の獲得認識

生徒が獲得した認識を記述項目別にみると、表10に示すようになる。

最も多かったのは、「子どものことを第一に考える」で、45.2%の生徒が記述していた。次いで、「トイレに行くとき大変」42.2%、「片手しか使えないから大変」40.4%、「親の大変さがわかった」32.9%、「重いから大変」32.5%と続くが、4～7位までは、ほぼ同人数の約3割の生徒が記述していた。

以上の結果をカテゴリー別に整理すると、表11になる。

表10 B Jの質問項目にみられた記述項目と記述人数（人(%)）

B Jの記述項目	全体	男女別		学科別		
	146名	男子 37名	女子 109名	商業科46名 男子10名 女子36名	国際経済科29名 男子 4名 女子25名	情報処理科71名 男子23名 女子48名
①子どものことを第一に考える。	66(45.2)	15(40.5)	51(46.8)	25(54.3)	17(58.6)	24(33.8)
②トイレに行くとき大変。	62(42.5)	28(75.7)	34(31.2)	27(58.7)	17(58.6)	18(25.3)
③片手しか使えないから大変。	59(40.4)	14(37.8)	45(41.3)	19(41.3)	7(24.1)	33(46.5)
④親の大変さがわかった。	48(32.9)	9(24.3)	39(35.8)	12(26.1)	5(17.2)	31(42.7)
⑤重いから大変。	47(32.5)	13(35.1)	34(31.2)	10(21.7)	10(34.5)	27(38.0)
⑥可愛いと思った。	46(31.5)	3(8.1)	43(29.4)	21(45.7)	7(24.1)	18(25.4)
⑦体力的につらい。	45(30.8)	4(10.8)	41(37.6)	19(41.3)	11(37.9)	15(21.1)
⑧パソコンを打つとき大変。	45(30.8)	11(29.7)	34(23.3)	4(8.7)	8(27.6)	33(46.5)
⑨食事をする時大変。	38(26.0)	9(24.3)	29(26.6)	19(41.3)	5(17.2)	14(19.7)
⑩経済力がない。	37(25.3)	4(10.8)	33(30.8)	19(41.3)	7(24.1)	15(21.1)

表11 B Jの質問に対する回答にみられたカテゴリー別獲得認識の記述頻度（回）

全体146名		男女別				学科別					
		男子37名		女子109名		商業科46名 男子10名 女子36名		国際経済科29名 男子 4名 女子25名		情報処理科71名 男子23名 女子48名	
獲得認識	記述回数	獲得認識	記述回数	獲得認識	記述回数	獲得認識	記述回数	獲得認識	記述回数	獲得認識	記述回数
①大変さ	338	①大変さ	83	①大変さ	204	①大変さ	118	①大変さ	62	①大変さ	158
②責任	180	②責任	36	②責任	144	②自己認識	76	②責任	43	②責任	93
③自己認識	147	③問題	25	③自己認識	130	③愛情	49	③自己認識	31	③親	45
④愛情	100	④自己認識	17	④愛情	90	④責任	44	④問題	25	④問題	43
⑤問題	96	⑤親	12	⑤問題	71	⑤問題	28	⑤愛情	16	⑤自己認識	40
⑥親	71	⑥愛情	10	⑥親	59	⑥親	18	⑥反省	13	⑥愛情	35
⑦反省	37	⑦反省	5	⑦反省	32	⑦反省	14	⑦親	8	⑦反省	15
⑧家族	24	⑧家族	5	⑧家族	19	⑧家族	13	⑧家族	6	⑧家族	11

(1カテゴリーに複数の記述項目あり。ただし、1項目につき、1人一回とする。)

全体では1位「大変さ」、2位「責任」、3位「自己認識」、4位「愛情」、5位「問題」、6位「親」、7位「反省」、8位「家族」の順となっていた。

（3）獲得認識にみられた性差

男女別にみると、1・2位と7・8位は全体と同じであったが、3～6位で違いがみられた。

男女とも、3～6位には全体と同様に「自己認識」「愛情」「問題」「親」が挙がるが、男子は「問題」→「自己認識」→「親」→「愛情」の順であったのに対し、女子は「自己認識」→「愛情」→「問題」→「親」であった。

これを記述項目で検討すると、男子は「FBに愛情がわからない」「FBは動かない」「泣かないから楽」などの問題を多く感じ、「自分は忍耐力に欠ける」と考えるのに対し、女子は「ずっと抱いていると腕がつかれる」「かわいい」「いとおいしい」など“体力的にはつらいが、FBはいとおいしい”と感じていた。

（4）獲得認識にみられた学科間の差

生徒の獲得認識には、学科間でも差がみられた。表11に示すように、1～3位にあがったカテゴリーをみると、国際経済科は全体と同様に、「大変さ」→「責任」→「自己認識」の順になっていた。商業科、情報処理科では、1位の「大変さ」は全体と同じであるが、商業科は2位、3位が「自己認識」→「愛情」となっていたのに対し、情報処理科は「責任」→「親」となっていた。

これを表10の記述項目と併せてみると、生徒は

“世話に伴う様々な大変さ”を第一に感じているが、そこから、情報処理科の生徒は“子どもに対する責任と自分の親に対する思い”を獲得しているのに対し、商業科の生徒は“今の自分は親になれないが、FBはかわいい”、国際経済科の生徒は“子どもに対して責任が果たせないで、今の自分は親になれない”と考えていると捉えられた。

以上の獲得認識を本継続研究のそれと比較してみると、FBPの実施条件が異なるため一律には断言できないが、情報処理科の生徒の認識は、高校生を対象に実施した第2・3・4報で得られた結果に近いのに対し、商業科の生徒の認識は、中学生を対象とした第1・6報の結果に類似し、国際経済科はその中間に位置づくと考えられた。

2. ディスカッション後の自由記述にみる生徒の獲得認識

（1）分析枠組の設定

ディスカッション後の「親になるということ、子どもを持ち育てるということ」に対する生徒の自由記述から、キーワード・センテンスを抽出した。それらの記述項目を、ディスカッション前後の生徒の認識を比較検討するため、表9で設定した8カテゴリーに整理したものが表12である。

表12に示すように、B Jの記述項目に対して設定した「問題」「反省」のカテゴリーに分類される生徒の記述は、ディスカッション後にはみられなかった。

表12 ディスカッション後の自由記述にみられたカテゴリー別獲得認識（人(%)）

獲得認識	全 体 146名	男女別		学科別		
		男子37名	女子109名	商業科46名 男子10名 女子36名	国際経済科29名 男子 4名 女子25名	情報処理科71名 男子23名 女子48名
①大変さ	29(19.9)	3(8.1)	26(23.9)	10(21.7)	9(31.0)	10(14.1)
②責任	76(52.1)	13(35.1)	63(57.8)	22(47.8)	13(44.8)	41(57.7)
③自己認識	50(34.2)	15(40.5)	35(32.1)	19(41.3)	8(27.6)	23(32.4)
④愛情	24(16.4)	5(13.5)	19(17.4)	5(10.9)	3(10.3)	16(22.5)
⑤親	12(8.2)	5(13.5)	7(6.4)	2(4.3)	0(0.0)	10(14.1)
⑥家族	30(20.5)	9(24.3)	21(19.3)	8(17.4)	1(3.4)	22(31.0)

（1カテゴリーに複数の記述項目あり。ただし、1項目につき、1人一回とする。）

表13 ディスカッション前とディスカッション後の生徒の獲得認識順位の比較

シ デ イ ス カ ッ シ ョ ン 前 後	全 体 146名		性 別				学 科						
			男 子 37名		女 子 109名		商業科 46名		国際経済科 29名		情報処理科 71名		
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
カ テ ゴ リ ー の 獲 得 順 位	①	大変さ	責任	大変さ	自己認識	大変さ	責任	大変さ	責任	大変さ	責任	大変	責任
	②	責任	自己認識	責任	責任	責任	自己認識	自己認識	自己認識	責任	大変さ	責任	自己認識
	③	自己認識	家族	問題	家族	自己認識	大変さ	愛情	大変さ	自己認識	自己認識	親	家族
	④	愛情	大変さ	自己認識	愛情	愛情	家族	責任	家族	問題	愛情	問題	愛情
	⑤	問題	愛情	親	親	問題	愛情	問題	愛情	愛情	家族	自己認識	大変
	⑥	親	親	愛情	大変さ	親	親	親	親	反省	親	愛情	親
	⑦	反省		反省		反省		反省		親		反省	
	⑧	家族		家族		家族		家族		家族		家族	

(2) 生徒が獲得した認識

全体で最も多かったのは、生徒の52.1%が記述していた「責任」である。以下、2位「自己認識」34.2%、3位「家族」24.3%、4位「大変さ」19.9%、5位「愛情」16.2%、6位「親」8.2%となっていた。

男女別にみると女子の1・2位と5・6位は全体と同じであるが、3・4位が「大変さ」→「家族」と逆転していた。男子は全体とは異なり、「自己認識」→「責任」→「家族」→「大変さ」→「愛情」→「親」の順となっていた。

以上を、先に考察したディスカッションが行われる以前のB Jの質問項目に対するカテゴリ別の獲得認識と比較すると、表13になる。

ディスカッション前後の生徒の獲得認識順位に違いがみられ、ディスカッション後は1・2位に「責任」「自己認識」が、ディスカッション前には8位であった「家族」が3位になっていた。しかし、「親」に対する認識は、ディスカッションの前後で違いはみられず、下位であった。

VI 高等学校家庭科普通科目「家庭総合」におけるFBPの意義と今後の課題

1. 岡山南高等学校「家庭総合」で実践されたFBPの意義

(1) FBの教材としての有効性

これまで分析・考察してきた南高の「家庭総合」における実践結果を、2007年6月末に東京で行わ

れた家庭科教育学会で発表した。発表後の質疑応答で、「生徒がFBを無機物として捉えていて、FBを抱くことは“ごっこ遊び”に留まっており、『子育ての大変さ』だけを獲得している」「そのような“ごっこ遊び”で人間関係を深められるのか」という指摘があった。

南高で実践されたFBPは、この指摘のように家庭科の保育や家族学習として意味を持たないものであったのだろうか。ここでは、「もし、生徒がFBを無機物として捉え、FBを抱くことによって何ら感情がわいてこないのであれば、重い荷物を1日持つと同様、獲得する認識は『大変さ』だけになるのではないか」という観点から、生徒の提出したB Jの記述を質的に検討することで、FBの教材としての有効性を検討してみたい。

B Jの質問項目9・10に対する記述、ディスカッション後の自由記述から、「生徒が『大変さ』以外の認識を獲得したか否か」を以下のABCの視点から分析し、その生徒数をまとめたものが表14である。

A：B J 9・10の質問で「大変さ」以外の認識を獲得している生徒

B：B J 9・10の質問で主に「大変さ」のみを記述していたが、ディスカッション後の記述では他の認識も獲得している生徒

C：B J 9・10の質問とディスカッション後の記述において、主に「大変さ」のみを感じている（子どもを持つことにマイナスのイメージを持っている生徒も含む）生徒

表14 「大変さ」以外の認識を獲得している生徒数（人）

	全体 146名	1組(26名)			2組(20名)			3組(29名)			4組(38名)			5組(32名)		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
A	130	6	17	23	2	15	17	3	23	26	11	23	34	8	22	30
B	8	0	0	0	0	2	2	0	2	2	1	1	2	2	0	2
C	8	1	2	3	1	1	2	1	0	0	1	1	2	0	0	0

具体的に生徒が記述していた内容から、先の課題について検討してみよう。

1) A : B J 9・10の質問で「大変さ」以外の認識を獲得している生徒の記述

○ずっと抱えているのは本当に体力的にも精神的にもきつかった。でも、とても親しみを持てた。（1組男子）

○本当に親というのは大変だと思った。FBを赤ちゃんにすることで、どのような気持ちでいるのかが分かったと思う。1日肌身離さず抱いていると、とても愛着がわいた。大変だと実感しても、やはり子どもは欲しいと思った。自分の親がこんな大変なことを続けてきたかと思うと少し感謝の気持ちが増えた。（1組女子）

○今回リアルに親になって感じたことは、まず本当に子どもを育てるとき、「死にそんなほど大変なんだろうなあ」と思った。…（中略）…やはり1日だけ自分の赤ちゃんのように思えるし、常に気になるし、いつの間にか鼻歌を歌ってぼんぼんしている。たのしいばかりではないのを十分承知しているが、正直実のある体験で楽しかった。（1組女子）

○親になり、世話をするという事は、難しく本当の赤ちゃんではなかったのに、自分では今までにない思いやりを持つことができた。ニュースなどで赤ちゃん死亡など、自分の子どもを殺してしまうことはとても悲しく、なぜしてしまうのか分からない。FBのまとめをして、自分の赤ちゃんという愛情と思いやりが芽生えて本当に良かった。命の重みというものに理解できた。これが本当に自分の赤ちゃんだったら、さらに愛情があると思う。子育てというものはどちらか一方に任すという考えではなく、二人で育てていくのだと感じた。また、FBPをするようなことがあったら、今回の反省を考えながら赤ちゃんと接していくことをしたい。（4組男子）

○他学科の人の感想が分からなかったけど、体験してみても愛情が生まれてきて、とても大切に思った。子どもを傷つける人が許せないなど親の気持ちもわかった。不便なことも多かったけど離れるのは寂しかったし、もっと一緒にいたいと思った。（4組女子）

○赤ちゃんを最優先して生活をしないといけないことや、大変さはあるけど、自分の子どもなので、苦勞も関係なく育てられると思った。自分の性格が変わるだろうと感じた。（4組男子）

○赤ちゃんの重さを1日感じただけでいとおしく思えて、とても落ち着けることができた。赤ちゃんは愛されるために生まれてきたんだと実感した。子どもが生まれることはマイナスのイメージが多かったけど、FBPをとおして世界観が変わって、責任感など今まで感じていなかったものが体験できた。無償の愛は夫や恋人よりも子どもの方へ多くあげたくなる。体験後、母に子どもを産

んだときのことを多く聞いた。（4組女子）

○親というのはとても楽しいものだと思っていたのでギャップがすごく多かった。腕が疲れて大変だった。赤ちゃんを育てるだけのお金がないとやはり産んではダメだと思った。周囲に手助けしてくれる人がいないと1人じゃ絶対に無理だと思った。（4組女子）

○重いものを持って家事ができる親ってすごいと思った。公共の場で赤ちゃんを抱えている人を見かけてつらそうだったら、声をかけたいと思った。最初は重たいばかりでただ腕を鍛えるのが目的の授業だと思っていたけれど、だんだん可愛く思えたのに驚いた。命ってなんて尊くて美しいものなのだろうと実感した。自分も親になったら、子どもには幸せになってもらいたいと思う。身体・精神・経済的にもっとガンバって鍛えたい。（4組女子）

○愛着がわいた。竜之介は軽かったけど、私は3700gだったので母はすごいと思った。1日抱いていただけなのにとても疲れた。本当に親になるとそれが毎日続くので、親はすごいと思った。授業中も片手しか使えなくて大変だったけど、大変さがわかってよかった。友だちに抱っこしている姿が意外と似合うといわれてうれしかった。（5組女子）

○お母さんの気持ちが少し理解できました。私がFBの親になって感じた不便だったことを生かして、小さな子どもがいるお母さんを見かけたら助けてあげようと思いました。（5組女子）

○泣かない、おっぱいもねだらない、排泄の世話も要らないが、1日中抱いていれば3kgという重さはやはり負担だった。本当のお父さんお母さんに比べれば圧倒的に短い時間しか体験していない。それでも大変さ嬉しさが感じられたことは大きな収穫だったと思う。だんだん愛着がわいてくるわが子には、ニセモノとわかっていても親らしい行動が取れるようになったと思うので、今日の体験を忘れることなく将来につなげたい。（5組女子）

2) B : B J 9・10の質問で主に「大変さ」のみを記述していたが、ディスカッション後の記述では他の認識も獲得している生徒

○B J : 赤ちゃんかわいいから早く欲しいとかよいことばかり思ってたけど、数時間もすれば腕が痛い。ずっと持って歩くのが嫌だと感じた、よいことはほんのわずかで苦しいことがたくさんある。理想だけでは育てられない。幸せなことより苦しんで大変なことの方がだいぶ多いこと。→ディスカッション後：本当に親は偉大だと思う。育てていくことで強くなるし、同じように自分も成長できると思う。それだけすごい責任感が伴うと感じた。（2組女子）

○B J：本物の赤ちゃんがほしい。授業中ずっと抱いていたら、他の先生にそこまでずっと抱いていなくても大丈夫といわれた。でも、抱いていなくても泣いたりするから大変だと思う。FBはリアリティがなくて愛着がわきませんでした。赤ちゃんを持つ親の大変さ。→ディスカッション後：親になるのは本当に大変だと思った。本当の赤ちゃんは泣くし叫ぶし面倒くさい。でも、かわいいから2人は産もうかな。（3組女子）

3) C：B J 9・10の質問とディスカッション後の記述において、主に「大変さ」のみを感じている（子どもを持つことにマイナスのイメージを持っている生徒も含む）生徒の記述

○B J：育てる難しさ。頭が重いからバランスが難しい。→ディスカッション後：自分を犠牲にして、子どものために行動する。（1組男子）

今回、FBPを実践した全ての生徒が「大変さ」に関して記述していた。しかし、多くの生徒は、表14にみられるように、FBを世話する「大変さ」から派生した別の認識を得ている。それは、①「『大変』なので子育てに対する責任感の必要性を感じた」、②「『大変』だったので自分の親に対する感謝・尊敬を感じた」、③「『大変』だったので自分一人では育てられない。パートナーと協力して子育てする。子ども連れの人を見かけたら助けてあげたいなど、家族、周囲の協力の必要性を感じた」、の3つに大別できる。

Vで考察したように、男子は「FBに愛情がわからない」「FBは動かない」「FBは泣かないから楽」等のFBが無機物であることへの問題を感じてはいるが、自分で顔を描き自分のベビーとして抱いたFBに対して「愛着がわからない」という意味の記述は見られなかった。さらに、生徒たちは、そのFBを「一日中抱き続ける」という世話を通して、「大変さ」から派生する「子育てに対する責任」「自分の親に対する感謝・尊敬」「子育てに際しての家族・周囲の人々の協力の必要性」を認識していた。

以上から、生徒は、興味・関心を持って実践に取り組む、単なる“ごっこ遊び”に終始するのではなく、FBの世話を介して「親になるということ、子どもを育てるということ」に関する様々なことを感じ、学んでいると捉えられた。

(2) 長岡大手高におけるFBP実践との獲得認識の比較

表8に示す条件で実施された南高と長岡大手高でのFBP実践によって生徒が獲得した認識を、カテゴリーで示すと次のようになる。

	岡山南高等学校	長岡大手高等学校
①	大変さ	自己認識
②	責任	大変さ
③	自己認識	責任
④	愛情	愛着
⑤	問題	問題

両実践で得られた上位3項目の認識は、「自己認識」「大変さ」「責任」とカテゴリーで比較すると同じである。

しかし、記述項目では質的な違いがみられた。例えば、「大変さ」のカテゴリーにおいて、長岡大手高では「24時間ずっと一緒にいることはとても大変」「ベビーと一緒に隣で寝るのは大変」「連れて歩くのが大変」という“親としてFBの世話をする大変さ”を認識していた。それに対し、南高では「トイレに行くとき大変」「片手しか使えないから大変」「重いから大変」という“自分の行動がFBにより制限される大変さ”を認識していた。

この認識の質的な差は、南高での“校内での1日”と、長岡大手高での“学校と家庭での7日間”の実践による日常的な経験の質的・量的な差と、自分の誕生時の体重と全く無関係な重さのFBを抱いたことに起因していると考えられる。特に、長岡大手高の実践で、毎日、生徒がFBを自宅に連れて帰って世話をすることにより、それを介して家族や他の人々とのコミュニケーションが広がり、それによって生徒が「親になるということ、子どもを育てるということ」に関してより多様な面から深く考えていったことは、本継続研究の目的から考えると重要な意味を持つと捉えられる。

2. 家庭科普通科目「家庭総合」におけるFBP実践の意義

以上から、表3①・表4①・表5①の「FB養育ルール・B J」の問い・ディスカッションのテーマを用いて、①「体重調節をしない（自分の誕生時の体重とは無関係な）FB」を用いて、②「学校のみ1日実施」でFBPを実践した場合、本継続研究で行ってきた①「自分の誕生時の体重のFB」で②「学校と家庭での7日間の実施」に比べると、質的・量的な違いはあるが、「大変さ」「責任」「自己認識」「愛情」等の認識は獲得できることが明らかになった。それに対して、「家族」「親」に関する認識の獲得は難しいが、「家族」に関する認識は、その後の授業でのディスカッションによって補うことができる可能性が示唆された。

3. 家庭科普通科目「家庭総合」におけるFBP実践の今後の課題

これまで検討してきたように、南高で実施された条件でのFBPは、学校の全教員のFBP実践に対する理解と協力が前提とはなるが、「一人の家庭科教員で40名の生徒を対象に、2時間の家庭総合の授業時間と1日の学校内の活動のみでFBPを実践できる」という利点がある。

しかし、その利便性ゆえに、家庭科の学習としてFBPを位置づけ実践していくためには、以下の点をさらに検討していかなければならないであろう。

(1) FBP実施条件

本報告で分析した1日だけのFBP実践は、保育学習の目的である「生徒の現在及び将来に渡る自己認識の形成」に直接的に関係してくると考えられる「自己理解」「家族の必要性」「自分の親に対する思い」に関する認識を獲得した生徒が少ないということが、第一の問題となる。この問題点を可能な限り克服し、FBPをより意味のある実践としていくために、以下の条件で再度、FBPを実践し、その有効性と「家庭総合」でのFBPの位置づけを検討していくことが、今後の第一の課題となる。

- ①自分の誕生時の体重のFBを用いる
- ②1日のFBP実践に適切なB Jの質問項目を設定する
- ③ディスカッションのテーマ・進め方を検討する

(2) 生徒の側の要因

さらに南高の実践では、同一のFBPを行ったにもかかわらず、学科によって生徒の獲得認識に差がみられた。これは、本継続研究では、FBPを実施する側の方法・条件から検討を行ってきたが、FBPを実践する生徒の側の要因についても検討する必要があることを示唆していると考えられる。

今後は、より多くの高校家庭科でのFBPの実施可能性を探るために、上記の2つの課題を踏まえ、1日のみのFBP実践についても検討していきたい。

最後になりましたが、本継続研究の趣旨をご理解いただき、FBPの実践結果を分析・公表することを快くお認めいただきました岡山県立岡山南高等学校の橋高知美教頭先生と家庭科教科主任の砂田裕子先生に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

引用文献

- 1) 佐藤園「アメリカ合衆国における教育改革と家庭科教育（第3報）－カンザス州のミドル・スク

ールにおける家庭科の実践－」、岡山大学教育学部研究集録第118号、2001、69-84頁

- 2) 佐藤園「ケア概念の獲得をめざす家庭科授業実践の試み（第1報）－大学生に対するFlour Baby Projectの実施結果－」、岡山大学教育学部研究集録第119号、2002、49-62頁
- 3) 佐藤園、三浦聖子、原田省吾「自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第1報）－中学生に対するFlour Baby Projectの実践と検討－」、岡山大学教育学部研究集録第128号、2005、147-155頁
- 4) 佐藤園、三浦聖子、佐藤ゆかり「自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第2報）－高校生に対するFlour Baby Projectの実践と検討－」、岡山大学教育学部研究集録第128号、2005、157-168頁
- 5) 佐藤園、三浦聖子、原田省吾「自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第5報）－中学校選択教科「家庭」におけるFlour Baby Projectの実践と検討－」、岡山大学教育学部研究集録第131号、2006、57-63頁
- 6) 佐藤園、三浦聖子、佐藤ゆかり「自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第3報）－高等学校家庭科専門科目「発達と保育」におけるFlour Baby Projectの実践と検討－」、岡山大学教育学部研究集録第129号、2005、87-95頁
- 7) 佐藤園、原田省吾「自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第5報）－中学校選択教科「家庭」におけるFlour Baby Projectの実践と検討－」、岡山大学教育学部研究集録第131号、2006、57-63頁
- 8) 原田省吾、佐藤園「自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第6報）－中学校必修教科「技術・家庭（家庭分野）」におけるFlour Baby Projectの実践と検討－」、日本家庭科教育学会中国地区会編『特色ある家庭科カリキュラム開発と授業研究』、2006、69-76頁
- 9) 佐藤園、三浦聖子、佐藤ゆかり、自分と子どものかかわりから自己理解を図る保育授業の開発（第4報）－高等学校家庭科普通科目「家庭総合」におけるFlour Baby Projectの実践と検討－」、岡山大学教育学部研究集録第130号、2005、67-76頁
- 10) 砂田裕子「『Flour Baby Project』を実施して」、岡山県教育委員会編『教育時報』第59巻10号、2007、32頁
- 11) 前掲書10) 33頁